

Cloud Vision

Vol.5

もう自社のIT部門を疲弊させない ニューノーマル時代のクラウドを 「賢く使う」運用管理の秘訣



マルチクラウドで顕在化してきたシステム運用の課題

——企業のクラウド導入は進んできていますが、ここへきて運用に苦勞する企業もあるそうですね。どのような課題が浮き彫りになってきているのでしょうか。

清水 クラウドの利用にかかわらず、システム運用の現場は多くの課題を抱えています。

IDC Japanによる調査レポート「2019年マルチクラウド調査」によると、まず業務や用途ごとに分断(サイロ化)されたシステムが乱立し、運用管理が属人化しています。ところが、これまで運用業務を担ってきた管理者が高齢化し、大量にリタイアしていく時期を迎えています。一方で次世代を担うべき人材をレガシーとなったシステムを維持するために投入することもできず、人手不足が目立ち始めています。

さらに、クラウド導入が加速するに伴い、クラウド上のシステムがブラックボックス化し、全体を俯瞰(ふかん)できなくなるという問題が深刻化しています。急激にビジネススピードが上がり、AIやIoT(Internet of Things)、コンテナといった新たなテクノロジーがクラウドから次々に生み出され、そう

した技術の多様化に運用現場が対応しきれなくなっているのです。

——クラウド戦略を立てる前に、現状のシステム運用の実態から見直す必要がありますよね。

清水 そうですね。実際、システム運用の全体把握ができていないことから、一貫性のない施策を展開しているケースが散見されます。

例えば「ベンダーロックインされたくない」と考えているにもかかわらず、複数の企業が提供するパブリッククラウドをバラバラに利用するのは避けたいと考えて特定ベンダーのパブリッククラウドを社内標準とするなど、相反するちぐはぐな方針が出されてシステム運用の現場が混乱する例もあります。

一方、各業務部門でクラウドを調達するのを容認してきた結果、ガバナンスが働かない“シャドーIT”が増殖し、会社全体で使っているITコストが分からない状態に陥っています。

クラウド運用管理の課題

1 現在のITの現場が抱えている課題

- システムのサイロ化
- 運用管理の属人化
- 労働人口の減少によるIT従事者の減少
→ 人材の枯渇

2 クラウドの利用で深刻化する課題

- 全体管理ができず複雑化するIT環境
- 多様化する技術への対応
→ 習得時間が足らず、運用現場が
ついていけない

3 運用管理担当以外に起因する課題

- クラウドへの理解不足
- 相反するリクエスト
(ベンダーロックインは避けたいのに、
クラウドは特定ベンダーに決定済み)

4 クラウド特有の課題

- ガバナンスが働いていない
- シャドークラウドを助長
- クラウドベンダーのサービス領域は、
ブラックボックス化

クラウド導入は運用変革のターニングポイント

——こうした課題を解決し、クラウドを賢く使いこなしていくためには、システム運用の変革が前提となるのですね。

清水 システム運用の変革には、「考え方(方法論)を変える」「やり方(オペレーション)を変える」「チーム編成(組織)を変える」など様々な視点があります。IBMではこれらを総合的に捉え、「運用のモダナイズ」(運用態勢の刷新)というキーワードでお客様に提案しています。

志賀 さらにIBMでは、「クラウドの導入は運用変革のターニングポイント」と訴えています。具体的には、IBMが提唱しているクラウド・ジャーニー(クラウドへの道筋)における「Move(既存システムのクラウド移行)」フェーズが運用変革の絶好のタイミングです。そのチャンスを最大限に生かしていただきたいと考えています。

裏を返せば、このタイミングを逃すと、社内の数千台ものサーバーで構成された多数のシステムの運用変革を実行するには、膨大な労力と時間、コストがかかってしまいます。

清水 クラウド上での運用を前提としたテクノロジーを活用した基盤へ刷新することと、システム運用を変革することは効率的なクラウド活用を実現するための両輪となります。先述したような多くの課題を抱えた既存のシステム運用を、そのままクラウドに持ち込むのは、あまりにももったいないといわざるを得ません。



日本アイ・ビー・エム株式会社
IBMオープンクラウドセンター 戦略クラウド推進
総括部長
志賀 徹

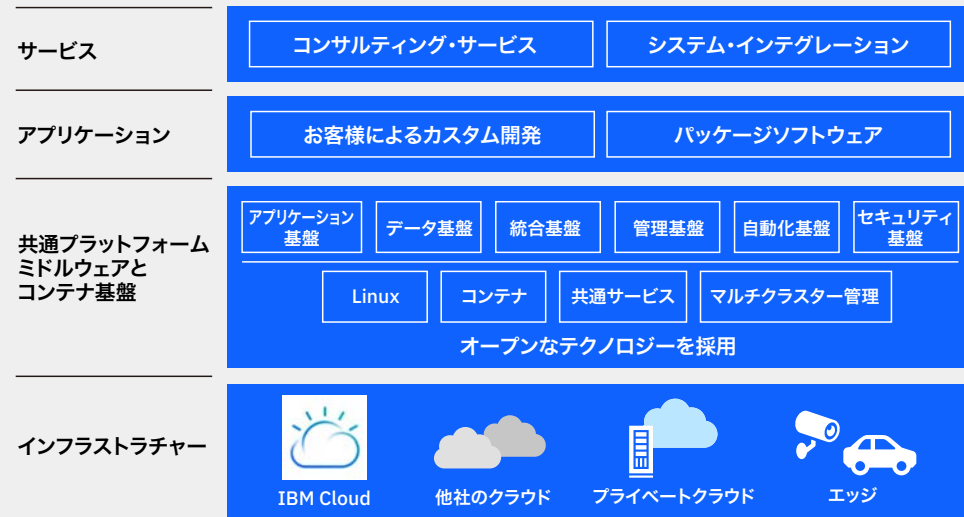
Profile

インフラ領域におけるクラウドビジネス推進のためのコンサルティングやソリューション策定を担当。様々な業界でクラウドを活用したデリバリーを経験、それを生かした先進的なソリューション策定・提案など実績多数。

IBM の提唱するクラウドジャーニー



クラウドジャーニーを支えるIBMのサービスと製品



本記事はクラウド管理フェーズをテーマに、IBMがご提供できるサービス、製品ソリューションについてご紹介しています。

オンプレミスとクラウド併用 全体のガバナンスを重視

——クラウド利用を前提としたシステム運用への変革を、どのようなアプローチで推進していけばよいのでしょうか。

清水 複数のクラウドが結果として混在していく流れは止められません。システムは単一の環境で稼働するのではなく、オンプレミス(自社運用)のシステムと併用する「ハイブリッド型」や、複数の企業が提供するパブリッククラウドを利用する「マルチクラウド型」といったオープンなクラウド環境を整備することで、初めて自社のビジネス環境に最も適したアプリケーションやITサービスを展開できるからです。

そこで必要となるのが、様々なクラウドやオンプレミスに分散したシステムの状況を俯瞰(ふかん)する仕組みづくりです。これによりシステムに障害が発生した際にも、原因を迅速に把握できるようになります。

志賀 IT企画部門やアプリケーション開発部門、システム運用部門、財務部門など、業務内容によってシステム運用・利用状況に関して確認したいポイントは異なります。したがって、それぞれの部門に適したデータを提供するとともに、常にリアルタイムで得られるようにすることも重要な要件となります。

——そうした状況でも、オンプレミスで運用している既存

システムの一部は変革への投資が見合わず、そのまま“塩漬け”となって残ると考えられます。どのように対応すればよいのでしょうか。



日本アイ・ビー・エム株式会社
IBMオープンクラウドセンター 戦略クラウド推進
清水 真己

Profile

業態業種を問わず、プライベートクラウドの構築提案、パブリッククラウドを活用したシステムの提案に従事。アプリ開発や運用支援業務、インフラ構築などの多様な経験を生かし、お客様のビジネス変革を支援する。

清水 一部の既存システムは当面なくならず、新旧両方の基盤を維持管理する必要があります。そうした二重負荷をなくすためにも、システム運用の変革が不可欠なのです。

クラウドにはクラウドに適した思想に基づいた運用を設計し、実践していきます。例えば管理者がモニターを常に監視し、コマンドを打っているような運用から脱却する必要があります。

クラウドの運用管理を支えるプラットフォームを提供

——オンプレミスや他社ベンダーとの併用も前提としたクラウドの運用管理を実現するため、IBMでは具体的にどのような解決策の選択肢を提供していますか。

清水 システムを監視して障害が発生したら対応するという運用のための運用ではなく、「アプリケーションを企画し、開発する時点からすでに運用は始まっている」とIBMは考えています。その全体プロセスを支える「マルチクラウド管理プラットフォーム (MultiCloud Management Platform) 」

理想的なのはシステム運用を自動化する「ゼロタッチオペレーション」で、より少ない人員でシステムに起こっている事象に対してスピーディーかつ正確に対応できるようにすることです。つまり、できる限り人手を介さずにシステムを運用できる状態を構築することで管理者の負荷を軽減します。

(以下、MCMP)を用意しています。

先述したように、役割やシチュエーションに応じたデータを提供するのが特長で、IT企画部門向けの「Consumption」、アプリケーション開発部門向けの「DevOps」、システム運用部門向けの「Operations」、財務部門向けの「Governance」の4種類のダッシュボードを提供。オンプレミスやクラウド上に分散するインフラやアプリケーションに対して、それぞれの立場で求められる管理に必要な情報を可視化します。

IBMが提供するマルチクラウド管理プラットフォーム(MCMP)概要



——システム運用を自動化するソリューションもすでに提供しているのですか。

清水 もちろんです。長年お客様の運用をしてきたIBM だからこそたまっている知見を活用できると思います。MCMP

には実際のシステム運用を通じて収集したデータや様々な知見を基に、ITシステム環境に発生している問題をAIで分析する「AIOps」という機能が実装されています。これにより、サービスのパフォーマンスや運用に関する改善ポイントのアドバイスを得ることができます。「AIOps」による運用改善と

MCMPの他の機能を組み合わせて活用することで「増加するシャドーITを管理したい」「開発やテスト環境がすぐほしい」「この障害が影響するアプリケーションを特定したい」「利用量に応じて部門やグループ会社に課金したい」など、様々な立場からの課題への対応をとることができます。

さらにオペレーションの継続的改善を支えるソリューションとして「Ansible Tower」を提供し、運用の業務フローを整理し、自動化していくことで、最終的にゼロタッチオペレーションを実現します。

——お客様ごとに異なる状況に対応してソリューションを提供できるのですね。

志賀 MCMPはお客様主導でご利用をいただくことが基本ですが、運用そのものをIBMに任せいただくための「マルチクラウド管理サービス (MultiCloud Management Services)」というマネージドサービスをご利用いただくことも可能です。

既存のIT基盤やパブリッククラウド、コンテナなど様々なシステムが混在する環境をIBMがリモートから監視・管理を行うソリューションで、世界基準の仕組みや自動化ツールを活用し、クラウドの効率的な運用管理を実現します。お客様の要件に応じて、サーバー・プラットフォーム監視、ネットワーク監視、ストレージ監視、データベース監視など必要なモジュールを選択し、自在に組み合わせていただけるのも特長となっています。

また、これらのサービス以外に、クラウド管理のために必要なミドルウェア製品をパッケージ化した「IBM Cloud Paks for MultiCloud Management」もご用意しておりますので、お客様のクラウド環境に対応した適切な運用をご支援できるソリューションの選択と提案、提供をしております。

今後もIBMは信頼されるパートナーとして、常にお客様の望む形で寄り添い、お客様と共にシステム運用の変革を推進していきます。



※取材は5月にリモートで実施しました。

※この内容は、日本経済新聞 電子版で2020年7月～8月に掲載した広告特集を転載したものです。また、役職等名称は取材時のものになります。

関連リンク

- [IBM] IT管理の統合と簡素化サービスのご紹介
- [IBM] マルチクラウド 運用・管理サービスのご紹介
- [IBM] マルチクラウド管理製品のご紹介
- Webセミナー「デジタル変革を加速するハイブリッド/マルチクラウド」
- IBMの提供する経営層・IT部門向けメールニュース

IBM Cloud

→ ibm.com/jp-ja/cloud

お問い合わせ

メールフォームでのお問い合わせ

→ ibm.biz/BdYTPw



IBM、IBMロゴ、およびibm.comは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml (US)をご覧ください。

©Copyright IBM Japan, Ltd. 2020

日本アイ・ビー・エム株式会社 〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

Printed in Japan August 2020 All Rights Reserved